

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400278		
法人名	有限会社グループホーム布衣乃郷		
事業所名	布衣乃郷		
所在地	静岡県袋井市堀越694-1		
自己評価作成日	H21.12.27	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-kouhyo-shi-zuoka.jp/kai-gosi-p/inforonPublic
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット
所在地	静岡県静岡市葵区千代田3丁目11番43-6号
訪問調査日	平成23年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム裏庭には畑があり、利用者が育てた野菜等をみんなで食している。アットホームな雰囲気重視して家庭に近い心地よいホームづくりをしている。また年2回の日帰り旅行やその時々希望に添った外出支援も多く実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から少し入った住宅地にある6年経過したホームです。家庭的な生活環境で温かみがあり、永年勤続の職員が多く人生のベテラン揃いの介護で入居者の表情は穏かで落ち着いています。地域の方々や歌・読み聞かせボランティア等訪問が多くあります。小学校との交流・近隣住民とのクリスマス会等、事業所の堅実な実績を見ることができます。管理者からは「当初のケア中心の内容から個々の満足やサービスに目を向けた現場になってきた」という言葉がありました。今後もさらなる取り組みをし、職員の研鑽を積み、地域の認知症介護の拠点となるグループホームになるよう期待いたします。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員の目に入る事務所・玄関・ホールに設置し、理念の意味を理解してもらい実践している。会議の前には理念を読み上げている。	管理者・職員は開設時作成した理念の思いを大事にして、利用者に寄り添う時のよりどころとして、日々の実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時や行事等、日常生活を通じて交流している。地域の方を招いてクリスマス会を行っている。地域活動は利用者と共に参加できることはしている。	開設から6年の経過の中で、住民の仲間入りができ親しいお付き合いの関係があちこちに確認できます。散歩や食材の買い物・外出を多く取り入れている日常で住民との交流もますます増えています。	地域の方々との交流も進んでいますので、「高齢者の介護」「認知症サポーター講座」等地域への情報発信の提供役としての活動に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて話し合いを持っているが、まだ活かされていない。しかし、地域の行事に少しずつ参加することで、認知症の理解をしてもらうことが多くなってきた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族・民生委員・班長さん、市職員の方の視点で意見を聞き、ミーティングやカンファレンス等で話し合っている。	課題だった開催回数も3カ月ごとに実施され、取り組みの状況を伝え多方面からの意見を聞き活動に活かしています。また、順番に家族に出席いただき「運営推進会議」を知って頂く取り組みもなされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的な協力関係は築けていないが、市の相談員の訪問等は行っている。	市担当者は運営推進会議に毎回出席があり、グループホームの現状と当ホームの日常を伝えています。行政との連絡・情報交換もあります。また、2か月に1回介護相談員の訪問を受け、気づき等の報告書から改善に繋げています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外のアーケードを施錠している。(防犯の為)	全職員は身体拘束に関する具体的な行為・弊害を理解していますが、利用者の無断外出が怪我につながった経緯があり対応・工夫の取り組みを繰り返しながらも道路につながるアーケードは日中の時間帯のみ施錠されています。	安全のための手段の一つではありますが、入居者本人の様子等を検討し、施錠時間を短くする試みに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で常に話し合い、報告・連絡・相談に注意し努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等は、制度に対する研修の機会が少ないので、なかなか思うようにいかない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に示し、家族に説明・同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には日常の様子を伝える中で、家族の思いや苦情を聞き改善に努めている。	基本的には日常の中で本人との会話を捉え思いを受け止めています。家族等には年4回の便りと利用者の様子を綴ったお手紙を送付し、また来所時に意見や要望を聞き 毎月のミーティング(9:30~全員参加)で検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見・不満等があれば、その都度話し合うように対応している。	永年勤務の職員が多く、日常業務の中でも話しやすい信頼関係が見られました。職員からの地域の情報、週末の食材の工夫案等は直ぐ現場に反映され働く意欲につながっています。勤務体制にゆとりがある事も心強い支援となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	離職防止の為に職員が働きやすい環境作りを意識している。勤務調整、有給消化、福利厚生等の充実等。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内では話し合い等、その都度対応しているが、外部研修はもっと積極的に進めていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	袋井市内のグループホーム交流会に参加し、近隣のグループホームは推進会議や行事に参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常会話を多く持ち、その中からいろいろと聴きだしていくことに努めている。また、入居前に出来る限りご本人に内覧して頂き、安心して頂けるように説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と密に連絡を取り、困っていること等を聞かせてもらい、入居者・家族が良い距離間で過ごせるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容からニーズを把握した上で、自社他社問わず、必要な情報を提供している。グループホームに限らず、ご本人にとって一番を考え伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは本人にやってもらい、本人が難しいことは一緒に行い支援している。日常生活の中で一人一人の能力にあった家事を自然な形で出来るよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と外出し外食を共にしてもらったり、家でのんびり過ごしてもらっている。家族に限らず、友達や知り合いにも自由に訪問して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人が面会・来訪できるようにし、歓迎している。遠方の方との関係については手紙、年賀状を出せるように支援している。	親しい方との携帯電話でのやり取り、或いはホーム電話での交流もあり関係が継続される支援があります。通所サービスや施設入所の友人の面会、旧住宅までのドライブに出掛ける支援もされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席など入居者の関係を見ながら変更をしている。2ユニットを活かし、両方のフロアへ入居者が自由に行き来してもらい、入居者同士の関係が広がるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も家族と関係を持ち、気軽に訪問して頂いたり、ボランティア等で来訪して下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向が話しやすい雰囲気作りに心掛けるようにしている。入居者の今までの生活や本人の希望を聞きながら、本人のやりたい事は興味を持ち、自分はまだ出来ると思える様に支援している。	家族のように職員は一人ひとりに話し掛け会話を通して本人の些細な表情や言動で意向の把握に努め、日常の記録がなされています。また家族からは面会時に必ず意向を伺うようにしています。少数の方ですが、夕食時のビールの希望も叶えられています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族から聞き取りを行い、今までの生活歴・病気・嗜好などを記録に残して、職員がいつでも情報を見れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昼夜を通して身体状況・生活状況を記録し、把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回の会議で意見交換し、介護計画の見直しを行っている。	3人の職員が2名の利用者を担当しケアマネと共に生活変化等の気付きや課題をとらえ作成し、看護師・ユニット職員と意見交換を行い、介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートや申し送り等で職員間で情報を共有し実践している。気づきや工夫はその都度職員間で話し合い提案している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に現状把握を心掛け、本人にあったサービスであるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩・外出・買い物等の関わりで支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回は定期的に往診して頂いており、本人及び家族の希望する医療機関があれば対応・受診している。	内科医の往診時はホーム内の看護師が対応し連携をとった支援をしています。希望のかかりつけ医の通院は職員が同行し受診に関わる支援をし、受診内容については看護師・家族にも共有されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護によるバイタルチェック等で情報の共有をし、適切な受診や看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の意向を含め医療機関と退院前に話し合い、ホームでも出来る範囲の事であれば早期退院できるよう取り組んでいる。入院中は毎日面会に行くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・かかりつけ医・職員を含め、今後について話し合い、一丸となって最期まで穏やかに、その人らしく過ごせるよう努めている。	最期までホームで暮らしたいとの本人・家族の意向に即したケアを行うことを基本にしてはいますが、医療依存度が高くなられた場合・入浴が不可能になった時は、対応できないことをその都度理解を得るよう家族には伝えていきます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等のマニュアルにて対応の備えを行っているが、初期対応の訓練が必要なので、これからは実践勉強していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は行って、地域の防災訓練にも参加しています。	2009年8月11日の地震の経験も踏まえて、管理者や職員の防災意識は高く、定期的に防災訓練は行われています。地域との防災協定などの協力関係構築は、今後の課題ですが、施設内の防火対策(決して火災は出さない等)常に気を配っています。スプリンクラーの設置も今年度中に完了す	災害対策は、これで良しと言う事は有りません。特に夜間の避難対策など、限界はありますが、より一層の諸施策(近隣の協力等)の取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけやコミュニケーションを重視し、一人ひとりの会話の中で入居者の人格を尊重するようにしている。	管理者・職員は利用者一人ひとりを尊重した対応で接しており、居室への出入り時やおやつへのお誘い・食事後の歓談等では気配り心配りがされていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩・ドライブ・買い物等の希望を聞き、自由に選択してもらい支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて自由に暮らしてもらっている。(居室で休みたい人・外出したい人)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容は本人の望む所があれば、そちらに行くように努めている。好みに合わせた髪型・服装を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を一緒にやったり、おにぎり・おはぎ等できることは自分で作ってもらっており、片付けもやって頂いている。	2名の食事担当職員が利用者の好みや季節野菜を取り入れたメニューで、2ユニット分の調理をしています。利用者も準備・片付けに参加しています。各自馴染んだ湯呑・茶碗が使われ1台のテーブルごとでゆったりと共に食事がされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分量をチェックし、排便チェックをしている。月1回の体重測定をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが自分で出来る方は見守り、困難な方は状況に合わせて支援している。夕食後は義歯のつけ置き洗浄の実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の状況に合わせて排便・排尿の声かけ誘導を行い、気持ちよく排泄できるように支援している。	トイレでの排泄を目指し、必要な方には声掛け誘導をしたり、トイレの場所を認識する工夫をして支援しています。新任職員は声掛けや介助の方法を実践の場で先輩職員から学ぶ取り組みをしています。夜間ポータブルトイレの支援の方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便をチェックし散歩をしたり水分を多く摂って頂くようにしている。また、乳製品や食物繊維の多い食品を摂取したりしている。散歩や廊下での歩行を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望も尊重し入浴を楽しめるように行っているが、基本の曜日は決まっている。	現在は外出の機会を多く作っていく目的がある事で、入浴の曜日を決め(月・水・金)入浴支援をしています。しかし、失禁時や発汗時は随時シャワー浴は行っています。先日のゆず湯も好評だったそうです。	業務や運営の都合での入浴日や時間の定着にならず、入居者の希望があった場合は柔軟な対応で入浴ができる取り組みに期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れる場所を居室だけに限定せず、居間などでも横になったり、ホールにはソファ・椅子を置いて休める場所を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬の説明を書式に書いて頂いてスタッフに承知してもらい、服薬で状態が変化した場合は医師と連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	負担にならぬよう、個々の出来ることを見極め役割を決めている。本人の出来ること・好きなことの中で、役割や楽しみを持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に行ったり、花を見に行ったり、外でも楽しめるよう支援している。	外出が大好きな入居者も多く、時間を見つけては、近隣の通常コース(神社・幼稚園・公園)の散歩や、外食・買い物・カラオケ・居酒屋等々に出掛けし、楽しんでいる様子が、写真の掲示や行事表からも見ることが出来ました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には、少額ではあるが本人で管理してもらう。また、買い物時に支払いのみでやって頂いている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば支援しながら電話をしたり、手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間・調度や設備・物品等も特別な物ではなく家庭にある一般の物を有し、居心地良く過ごせるようにしている。	温かい日差しが差し込む居間からは、庭に出ることができ、洗濯干しや畑の草取り等で自由に出入り可能となっています。冬の季節は「掘りごたつ」が畳の部屋にあり、洗濯たみや交流の場として好評のようです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さん同士でフロアで過ごされたり、雑談されたりと自由に過ごすことが出来るように支援している。一人になれる場所は居室にて対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各家庭で使用されていた物品を持ってきて頂き、また、自分の趣味を飾ったりしている。	一日は早出の職員と各自の居室掃除をすることから始まり清潔になっています。居室は一間の押入れ棚を有効に活用し、また馴染んだ小筆筒、ベット、小机等が安全に配置されそれぞれに居心地よく設えてあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	勘違いしやすい場所に目印をし、部屋には分かるように大きく名前が書いてある。		